

ヨード造影剤についての説明同意書

CT 検査では、ヨード造影剤という薬剤の注射をする場合があります。

この造影剤は X 線検査で病気の有無や病気の性質、範囲といったことをより正確に評価するために用いられるものです。造影剤を使用するかどうか（造影検査の必要性）は、主治医・担当医が判断いたします。

造影剤を使用すると、まれに副作用が起きることがあります。ぜんそくやアレルギー体質でこの確率は高くなります。副作用の種類は次のようなものです。

1. 軽い副作用

吐き気、かゆみ、くしゃみ、咳、咽喉頭（のど）違和感、動悸、頭痛、発疹などです。

造影剤投与直後に現れることが多いですが、検査の 1～2 日後に発疹が現れることもあります。

このような副作用の起こる確率は約 100 人につき 1～1.5 人、約 1～1.5%です。

2. 重い副作用

呼吸困難、ショック、意識障害、血圧低下、腎不全などです。

このような副作用は、入院の上での治療が必要で、場合によっては後遺症が残る可能性があります。このような副作用の起こる確率は、約 6,000～9,000 人につき 1 人、約 0.01～0.02%です。

病状・体質によっては 10～20 万人に 1 人の割合（0.0005～0.001%）で死亡する場合があります。

3. 造影剤を注射する時には、

① 体が熱くなることがありますが、直接の反応であり心配ありません。

② 勢いよく造影剤を注入するために、血管外に造影剤が漏れる場合があります。

この場合、注射部位が腫れて痛みを伴うこともあります。基本的には時間が経てば吸収されます。

漏れた量が非常に多い場合には、別の処置が必要になることもあります。

4. 腎機能低下、心疾患、甲状腺機能亢進症、褐色細胞腫、骨髄腫などある方に造影剤を使用すると、症状が悪化することがあります。このため、造影剤を使用するかどうかを慎重に決定する必要があります。

5. 今までにヨード造影剤で副作用の起こった方は、原則としてこの造影剤は使用できません。

ヨード造影剤について内容を説明しました。

年 月 日 診療科 _____ 医師 _____

私は、上記説明内容を理解し、造影剤の使用に 同意する 同意しない

(いずれかに○印をつけて下さい)。

年 月 日

本人 _____

または 代理人 _____ 続柄 ()